

2019年度  
しあわせキャリア支援センター  
活動報告書

学校法人 日本医科大学  
しあわせキャリア支援センター

# 目 次

ご挨拶	1
学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター体制図	2
I. 育児支援	3
II. 研究支援	3
III. キャリア教育支援	4
IV. 定例会議	4
V. 研究支援員配置制度に関する規則の改正案作成	5
VI. 若手女性医師・研究者交流会の開催	5
VII. ワーク・ライフ・バランスに関する講演会の開催	5
VIII. ベビーシッター割引券の発行	5
IX. 公的助成金の申請及び獲得	6
2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ（牽引型）に係る取組み	6
(1) ダイバーシティ研究環境整備のための取組み	6
(2) 女性研究者の研究力向上のための取組みとそれに通じたリーダー育成のため の取組み	12
(3) 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組み	13
2019年度 学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター構成員	14

## ご挨拶



学校法人日本医科大学

しあわせキャリア支援センター

センター長 土佐 眞美子

2019年度は、しあわせキャリア支援センターにとって大きな転機の年となりました。4月に開設後、7月には、2019年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、本格的な活動が始まりました。理事長や学長をはじめとして、各担当部署の方々のご協力を得て事業を進めて参りました。本事業の目的は、ダイバーシティ研究環境を実現し、女性研究者の研究力を向上させ、女性研究者の上位職登用の促進を目指すものです。日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社の3機関が連携して取り組みます。今回の採択は、男女問わず全職員の個性が尊重され、組織の目標に向かって存分に力を発揮できるような職場環境の整備と、キャリアを継続するための支援を強力に後押しするものとなります。

補助事業として最初に取り組んだのは、教員・研究者の意識調査および職場環境の現状把握と分析です。支援策の策定に役立てるために実施した「学校法人日本医科大学におけるワーク・ライフ・バランス等に関する調査」には、多くの教員・研究者の皆様にご回答頂き、キャリアの継続に関わるニーズを明らかにすることができました。今後、この結果をもとに職場環境の整備などのための支援策を実行して参ります。

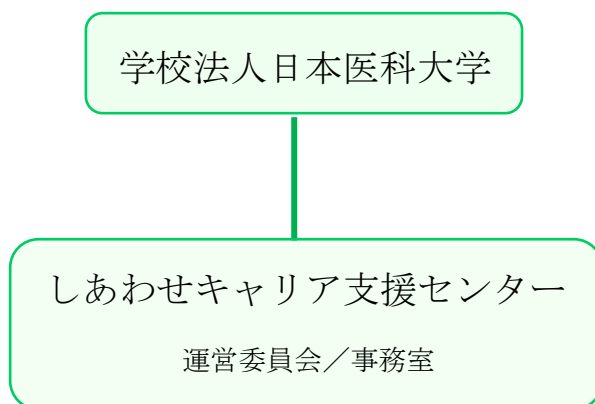
さらに、ニーズにあった研究支援員を配置する制度や共同研究費の補助などの支援事業、ダイバーシティ推進やマネジメント力向上などをテーマにした講演会開催も行いました。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大により、年度末に開催を企画しておりました、キックオフシンポジウムおよびOne Health講演会は中止を余儀なくされました。このような状況の中ですが、できることをしっかりと進めていく所存です。ここに、2019年度の活動をまとめましたのでご高覧頂ければ幸いです。

新型コロナウイルスという困難により、私たちの仕事や生活にも大きな制限がかかり、これまでに経験したことのない状況にあります。しかし、この状況から得られる手立てもたくさんありますので、柔軟かつ前向きに、対応していきます。

育児や介護などのライフイベントを大切にしながら、その時にできる、その人にとってしあわせな働き方を皆様が見つけていくためのお手伝いができるように、スタッフ一同努力して参りますので、今後ともご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2020年3月

# 学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター体制図



## ～2019 年度活動報告～

### I 育児支援

#### ●マザーネット



#### 【2019 年度マザーネット月別利用状況】

(登録者数 32 名)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
5	9	10	10	6	7	8	6	11	12	9	4	97

(単位：人) ※延べ人数

< 利用料金補助総額 1,371,918 円 > ※昨年度 1,626,936 円 / 114 人

#### ●授乳・搾乳室利用状況

6 月～7 月で延べ 8 名

10 月以降は日本医科大学図書館 1 階へ移転のため、同室の設置はなし

### II 研究支援

#### ●研究支援員配置者数

基礎医学 2 名

臨床医学 1 名 計 3 名

#### 1) 研究支援員の声

- ・充実した研究支援員業務を送ることができた。
- ・基本的な手技については安定して行うことが出来るようになった。研究活動の実際を体験することが出来、将来のイメージを持つことが出来た。

#### 2) 支援を受けた時間数

制度利用者 A ①令和元年 7 月～令和元年 11 月まで、合計 33.5 時間

②令和 2 年 3 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日まで、合計 8 時間

制度利用者 B 令和元年 9 月～令和元年 10 月まで、合計 47 時間

制度利用者 C 令和 2 年 3 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日まで、合計 4 時間

#### 3) 当制度を利用したことによる効果等

- ・私自身が帰宅時間後におけるサンプルや培地交換の必要性が何度かあり、本来であれば、夜に戻る必要があったが、その作業を委託できたことが大変ありがたかった。また、本来は試薬の調整や分注作業に多くの時間を要するが、それを依頼することでその時間を他の実験に費やすことが出来、仕事の効率化が図れた。
- ・研究支援員の研究参加により、研究室の他の先生との交流もあり、私共の研究活動が活発となった。また、帰宅時間の制約があるため、支援員が慣れた作業に関しては実験を継続してくれ、時間効果的なサポートもしていただいたので、大変助かった。

### III キャリア教育支援

令和元年11月5日（火）に第1学年を対象に、特別プログラムとして「医師としての未来予想図を描いてみよう」を実施した。

### IV 定例会議

当支援センターの円滑な運営を図るために、原則として隔月で委員会を開催している。開催場所は千駄木であるが、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院所属の委員は、テレビ会議システムも活用している。

第1回 令和元年5月13日（月）午後4時30分～

- ・名称変更及び改組について
- ・人事異動について
- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）への応募について
- ・広報誌 OneHealth5月号記事掲載について
- ・第1回（基礎医学）交流会開催について
- ・しあわせキャリア支援センター運営委員会運営要項（案）について
- ・令和元年度講演会開催について

第2回 令和元年7月1日（月）午後4時30分～

- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）面接審査受審について
- ・研究支援員配置申請について
- ・マザーネット利用について
- ・日本医科大学女性研究者奨励賞創設について
- ・しあわせキャリア支援センター職務分担について

第3回 令和元年9月11日（水）午後5時30分～

- ・2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業計画に



（会議室）

ついて

- ・2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）補助事業職務分担について
- ・2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）補助事業に係る募集要項等について（共同研究・新型研究支援員配置）
- ・第2回しあわせキャリア支援センター主催交流会について

第4回 令和2年1月30日（木）午後6時～

- ・2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業計画の進捗状況について
- ・2020年度しあわせキャリア支援センター中長期計画・事業計画について
- ・2020年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業計画について
- ・大学院生のたちばな保育所利用について
- ・マザーネット利用対象について

## V 研究支援員配置制度に関する規則の改正案作成

研究支援員の支援を受けている被支援者（利用研究者）が、特別休暇（産前・産後）または育児休業、介護休業を取得した場合にも、研究活動の継続支援を行う観点から、「代理監督者」を置くことで研究支援員を継続して配置できるよう、規程等の一部改正に向け手続きを開始し、令和2年5月1日付での改正を目指し、令和2年3月に原案を提出した。

## VI 若手女性医師・研究者交流会の開催

今年度は日本医科大学基礎医学において令和元年5月22日（水）に、臨床医学において令和元年10月19日（土）にそれぞれ開催された。

参加者数は、基礎医学13名、臨床医学15名であった。

## VII ワーク・ライフ・バランスに関する講演会の開催

日本獣医生命科学大学において、令和元年9月19日（木）に、教職員及び学生を対象に開催し、参加者は47名であった。

## VIII ベビーシッター割引券の発行

令和2年3月に新型コロナウイルス感染症対策のための小学校等における臨時休校が行われることを受け、「ベビーシッター派遣事業割引券」を発行することとした。

割引券は、内閣府の委託を受け公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター派遣事業制度」により発行している。

今年度中の利用者は0名であった。

## IX 公的助成金の申請及び獲得

2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に申請し、採択された。

今後6年間（2024年度まで）、日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社の3機関で連携して事業に取り組むこととなった。

2019年度の補助金額は、日本医科大学24,326千円、日本獣医生命科学大学6,309千円（民間企業に補助金はなし）で、2021年度までの3年間は当該年度の事業計画により計上した予算を申請し、文部科学省で審査の上補助金額が決定し、交付される。

4年目以降の事業活動費は、全額各大学で負担することとなる。

### 2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に係る取組み

本事業における取組みは当センターが実施母体となり、連携機関（日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社）のマネジメントを行う。

2019年度に行った取組みは、以下の通りである。

#### （1）ダイバーシティ研究環境整備のための取組み

##### 1. ワーク・ライフ・バランス等に関する調査（アンケート）の実施

今年度は、教員及び研究者の職場環境の現状を把握・分析することで、出産・育児、介護等のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備等の策定に役立てることを目的とし、日本医科大学及び日本獣医生命科学大学に所属する教員・研究者に対し、「学校法人日本医科大学におけるワーク・ライフ・バランス等に関する調査」と題し、50項目の設問を設定し、Webアンケートを実施した。

実施期間は、令和元年12月13日（金）～令和2年1月2日（木）で、回答者数は、日本医科大学350名、日本獣医生命科学大学48名であった。

#### 学校法人日本医科大学におけるワーク・ライフ・バランス等に関する調査

2019年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の一環として、2019年12月に「学校法人日本医科大学におけるワーク・ライフ・バランス等に関する調査」を実施した。

調査の目的は、教員および研究者の職場環境の現状を把握・分析することで、今後の支援策（出産・育児・介護などのライフイベントおよびワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備など）の策定に役立てることにある。調査項目は、ワーク・ライフ・バランス、キャリア継続（離職）、留学、病児保育を含めた保育支援などからなる50項目



で、有効回答数は 398 件であった。以下に結果の一部を紹介する。

### 病児保育ニーズの高さ

子供の病気のため仕事で困った経験があるのは 76.8%と高い一方で、病児保育の利用経験者はわずか 15.3%であった。子どもが病気になった場合は、自らが休暇を取り対応 (52.4%)、祖父母など家族に預ける (43.6%)、などが多く、本学に病児保育制度ができれば利用したいと 95%が回答した。

### キャリア継続を妨げる要因

「ワーク・ライフ・バランスの観点から離職を考えるなど、このままの働き方ではキャリアの継続が困難だと感じたことがある」のは全体の 77.9%であったが、女性では 89.5%と割合が高く、その理由の第 1 位はライフイベント (結婚や出産など) の変化であった。一方男性においては、ライフイベントの変化を挙げたのは 4.9%と最下位であり、男女差が明らかになった。

### 留学支援のニーズ

海外留学経験者は、6 割以上が配偶者や子供を帯同しており、留学先の選定は上司や前任者のすすめが最多 (51.6%)であったが、32.6%が自分で留学先を見つけていたことが明らかになった。留学経験者の 99%が「留学が良い影響を及ぼしている」と回答した。

留学未経験者が留学をしない理由としては、子育て・介護(27.7%)が最多で、さらに対象を女性だけにすると、この割合は 43.4%になった。

本事業ではこの調査結果を、病児保育を含む育児支援制度や、ライフイベントに伴う働き方に柔軟な対応ができる職場作り、留学支援制度などの検討に活用し、研究者がキャリアを継続し活躍できる研究環境の整備を行う。

### 調査概要

【回答方法】 無記名・WEB 回答

【実施期間】 2019 年 12 月 16 日(月)～2020 年 1 月 2 日 (木) 22:00

【対象者】 日本医科大学と日本獣医生命科学大学の教員および研究者

詳細な調査報告は本事業のウェブサイトに掲載している。

## アンケート結果

### ワーク・ライフ・バランス等に関するアンケート調査

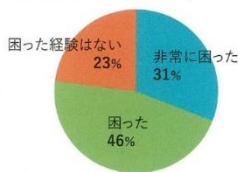
2019年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の一環として、2019年12月に日本医科大学・日本獣医生命科学大学の教員と研究者に対し、「ワーク・ライフ・バランス等に関するアンケート調査」を実施しました。

本事業ではこの調査結果を、病児保育を含む育児支援制度や、ライフイベントに伴う働き方に柔軟な対応ができる職場づくり、留学支援制度などの検討に活用し、研究者がキャリアを継続し活躍できる研究環境の整備を行います。

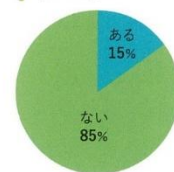
#### ● 病児保育ニーズの高さ

子どもの病気のため仕事で困った経験があるのは76.8%と高い一方で、病児保育の利用経験者はわずか15.3%でした。子どもが病気になった場合は、自らが休暇を取り対応(52.4%)、祖父母など家族に預ける(43.6%)、などが多く、本学に病児保育制度ができれば利用したいと95%が回答しました。

あなたの勤務日に子どもの病気のために、出勤に際してあなたが仕事上困った経験はありますか。(n=275)



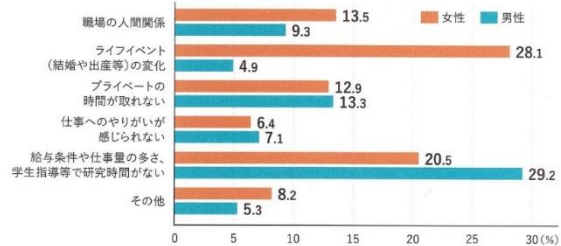
これまでに病児保育を利用した経験はありますか。(n=275)



#### ● キャリア継続を妨げる要因

「ワーク・ライフ・バランスの観点から離職を考えるなど、このままの働き方ではキャリアの継続が困難だと感じたことがある」のは全体の77.9%でしたが、女性では89.5%と割合が高く、その理由の第1位はライフイベント(結婚や出産など)の変化でした。一方男性においては、ライフイベントの変化を挙げたのは4.9%と最下位であり、男女差が明らかになりました。

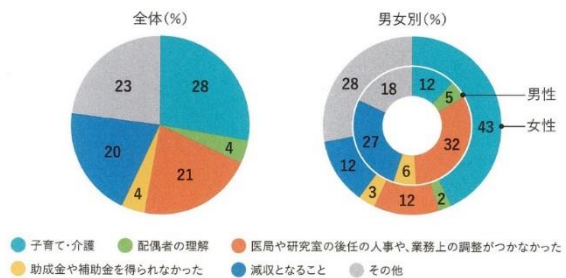
ワーク・ライフ・バランスの観点から、離職を考えるなど、このままの働き方ではキャリアの継続が困難だと感じたことがありますか。ある方は、以下の中で最もあてはまる理由をお選びください。(n=398)



#### ● 留学支援のニーズ

海外留学経験者は、6割以上が配偶者や子どもを帯同しており、留学先の選定は上司や前任者のすすめが最多(51.6%)でしたが、32.6%が自分で留学先を見つけていたことが明らかになりました。留学経験者の99%が「留学が良い影響を及ぼしている」と回答しました。留学未経験者が留学をしない理由としては、子育て・介護(27.7%)が最多で、さらに対象を女性だけにすると、この割合は43.4%になりました。

研究や臨床を目的とした海外留学について、留学を選択しなかった理由として最も近いものは何ですか。(n=303)



#### 調査概要

【回答方法】 無記名・WEB回答  
【有効回答数】 398件

【対象者】 日本医科大学と日本獣医生命科学大学の教員および研究者  
【実施期間】 2019年12月16日(月)～2020年1月2日(木) 22:00

※詳細な調査報告は本事業のウェブサイトに掲載しております。

## 2. 新型研究者支援制度による研究支援員の配置

研究支援員配置希望者の公募を行ったところ、8名の女性研究者から応募があり、One Health 実行委員会における審議の結果、8名全員に対し研究支援員の配置を決定した。研究支援員の雇用に係る経費は、当該補助金より支出した。

## 3. 連携機関における共同研究

代表機関と共同実施機関での共同研究の公募に対し、4件の応募があり、One health 実行委員会における審議の結果、4件全て採択され、1件につき100万円の研究費の補助を行った。

## 4. 「いのちのつながり」に関する講演会

開催日時：令和元年11月2日（土）午後2時～

開催場所：日本医科大学武蔵境校舎

テーマ：「昆虫に学ぶ多様な生き方～ダイバーシティとは何かを考える～」

参加者数：40名



辻 和希先生「社会の免疫と社会の癌～アリの社会の不思議～」



森田達志先生「寄生と共生～寛容により生まれる新しい価値～」

## 講演会

# 昆虫に学ぶ多様な生き方 ～ダイバーシティとは何かを考える～

入場無料

11/2(土)

14時～16時30分

武蔵境キャンパスE棟  
マルチメディア教室

主催：日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社

日時：2019年11月2日（土）14時～16時30分

会場：日本医科大学（日本獣医生命科学大学）武蔵境キャンパス  
E棟2階マルチメディア教室

最寄駅：JR中央線「武蔵境」駅南口より徒歩2分

### プログラム

開会挨拶：土佐 眞美子（しあわせキャリア支援センターセンター長）

理事長挨拶：坂本 篤裕（学校法人日本医科大学 理事長）

講演 I

## 社会の免疫と社会の癌 アリの社会の不思議



琉球大学農学部 教授  
辻 和希

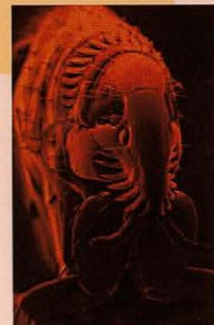


講演 II

## 寄生と共生 寛容により生まれる新しい価値



日本獣医生命科学大学 准教授  
森田 達志



学長挨拶：弦間 昭彦（日本医科大学 学長）

清水 一政（日本獣医生命科学大学 学長）

閉会挨拶：柿沼 美紀（しあわせキャリア支援センター 副センター長）

司会

植木 美希（日本獣医生命科学大学ダイバーシティ推進委員会 委員長）

武藤 三千代（しあわせキャリア支援センター 委員）

お問合せ

学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター

<http://www.nms.ac.jp/sh/shien> E-mail: [app-shien@nms.ac.jp](mailto:app-shien@nms.ac.jp) Tel: 03-3822-2131 (代)

## 【講演会趣旨】

この度、日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社が連携して2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」へ申請し、選定されました。

本事業を通して、「One Health(いのちのつながり)」を柱とした研究の推進と女性・若手研究者の研究力向上のための支援を行い、上位職への登用促進につなげて、次世代を牽引するリーダーシップを備えた女性研究者を育成し、未来型医療を先導いたします。

本講演会は、この取り組みの一つとして開催するものです。昆虫に学ぶ多様な生き方を通して、ダイバーシティとは何かを考えます。

## 【講演者メッセージ&プロフィール】



### 辻 和希 琉球大学農学部 教授

アリの社会は「超個体」と呼ばれるほどメンバー同士の結束が固いように見えます。しかし実は、社会は結束を齎らす同種や他種生物からの寄生の脅威に常にさらされています。そして社会の側もこれらに対抗します。この講演ではアリの社会におけるせめぎ合いの実例を紹介し、進化生態学的な観点から斬ります。

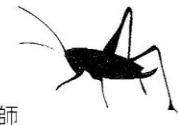
- 1989年 名古屋大学大学院農学研究科大学院博士後期修了（農学博士）
- 1990年ー1992年 日本学術振興会 特別研究員 PD（琉球大学）
- 1993年ー1995年 A.v. フンボルト財団客員研究員（ドイツ Würzburg 大学）
- 1995年ー2001年 富山大学 理学部 助手
- 2001年ー2005年 琉球大学 農学部 助教授
- 2005年ー 琉球大学 農学部 教授 現在に至る
- 兼任 パリ第6大学客員教授（2001年）  
鹿児島大学大学院連合農学研究科 主指導教員



### 森田 達志 日本獣医生命科学大学 准教授

生物は他の生物に害を与えてでも自らの生存を優先し、ときには寄生という生き方を選択します。しかし長い目で見ると、害を与えるだけであつたはずの寄生者が後に益をなす共生者になることがあります。それは害を受け止め続ける寛容さがあればこそ実現します。多様性を受け入れることで様々な価値観にあふれる FAUNA（動物相）が実現します。

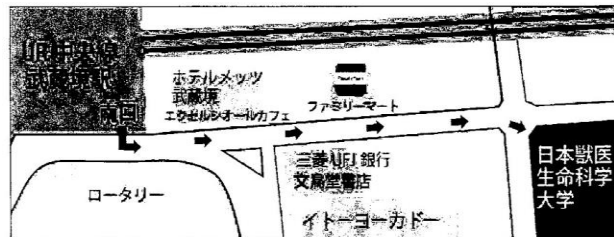
- 1995年3月 日本獣医畜産大学 大学院獣医学研究科 博士課程修了
- 1995年4月 日本獣医畜産大学 獣医学部獣医学科 獣医寄生虫学研究室 助手
- 2007年4月 日本獣医生命科学大学 獣医学部獣医学科 獣医寄生虫学研究室 講師
- 2018年4月 日本獣医生命科学大学 獣医学部獣医学科 獣医寄生虫学研究室 准教授



## 会場へのアクセス

JR 中央線  
武蔵境駅南口より  
徒歩 2分

日本医科大学（日本獣医生命科学大学）  
武蔵境キャンパス  
E棟2階マルチメディア教室



## 5. 短時間勤務女性医師制度利用者のキャリア継続支援整備案の立案

日本医科大学における短時間勤務女性医師制度利用者に対するキャリア継続支援整備案の立案を行った。

## (2) 女性研究者の研究力向上のための取組みとそれに通じたリーダー育成のための取組み

### 1. 産学横断型キャリア相談窓口の開設

当センターの旧ウェブサイトを設置した相談室を産学横断型キャリア相談窓口として開設し、寄せられた相談に学内の研究統括センター及び知的財産推進センター、アンファー株式会社と連携して対応する体制を整備した。

### 2. 産学横断型メンター制度の導入、One Health 特設ウェブサイトの設置

今年度はメンター制度の導入段階として、日本医科大学及び日本獣医生命科学大学から女性研究者 16 名、アンファー株式会社から男性 1 名、女性 1 名を登録し体制を整備した。

令和 2 年 3 月 16 日付で One Health 特設ウェブサイトを開設した。また、令和 2 年 3 月 17 日にニューズレター創刊号を配布した。

### 3. リーダーシップ養成セミナーの開催

開催日時：令和元年 12 月 5 日（木）18 時～

講師：合同会社オモテナシズム代表 川邊彌生氏

2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

## リーダーシップ養成セミナー

日時：2019年12月5日(木)  
午後6時～午後7時30分

参加費  
無料  
事前申込  
不要

場所：日本医科大学  
(日本医科大学基礎医学大学院棟・地下2階演習室3)  
(東京都文京区千駄木1-1-5)

テーマ：「ココ・シャネルに学ぶ  
～女性のためのビジョンメイキング～」

講師：川邊 彌生 氏

BCS認定プロフェッショナルビジネスコーチ, MBA  
合同会社オモテナシズム 代表

日本医科大学・日本獣医生命科学大学・アンファー株式会社の  
関係者の方ならどなたでもご参加いただけます

主催  
日本医科大学  
日本獣医生命科学大学  
アンファー株式会社

お問合せ  
学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター  
Email: app-shien@nms.ac.jp  
Tel: 00-3822-2131 (代)



【セミナーの様子】

### (3) 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み

#### 1. マネジメント力養成講座

開催日時：令和2年2月14日（金）18時～

講師：パク・スックチャ氏

参加人数：48名

2019年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

<マネジメント力養成講座>

**知らなきゃ損するかも？**  
～アンコンシャスバイアス  
(無意識の偏見)の基礎知識～

ダイバーシティの促進のためには、多様性を認め合う意識改革が必要です。しかし脳内では「無意識の思い込み」が、あなた自身を「女性だから」「男性だから」と決めつけてしまっているのです。多様性に富んだ、マネジメント力がこれからの職場には必要です。

**日時**  
2020年2月14日(金) 17:30開場  
18:00-19:00

**場所**  
日本医科大学 教育棟3階 講義室3

**対象**  
日本医科大学、日本獣医生命科学大学、  
アンパー株式会社に所属する教職員

**定員**  
120名

**申し込み先**  
右のQRコードまたは  
下記URLより事前申込をお願いします。  
<https://forms.gle/txHkodEKyPjJXT8R9>

※お送りいただいた個人情報は、本講座運営に関するのみ使用いたします。  
※定員に達し次第、締め切らせていただきます。

**講師**  
パク・スックチャ  
日本生まれ、韓国籍。韓国ソウルに日本大学経済学部8年(学2)、5次学位取得。韓国政府奨学金で渡日。韓国日本大使館に勤務後、日本医科大学附属病院総合企画課長として勤務。その後、韓国に帰国し、韓国政府の海外研修員として勤務。その後、韓国に帰国し、韓国政府の海外研修員として勤務。その後、韓国に帰国し、韓国政府の海外研修員として勤務。

**主催**  
日本医科大学  
日本獣医生命科学大学  
アンパー株式会社

**お問い合わせ**  
学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター  
Email: app-shien@nms.ac.jp  
Tel: 03-3822-2131 (代)



【講座の様子】

#### 2. 英語論文校閲費用助成

対象：日本医科大学に所属する女性研究者（特任を含む常勤教員及びポストク）

募集期間：令和2年2月13日（木）～3月6日（金）

利用者数：13名

助成総額：602,733円

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

**2019年度  
英文校閲費用助成制度  
利用希望者  
募集中!!**

応募締切 **3/6 (金)**

本制度は、女性研究者の研究力向上とキャリアアップを推進することを目的として、学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用を助成する制度です。2019年度における本制度利用希望者を以下のとおり募集いたします。

■応募資格：  
・日本医科大学に所属する女性研究者（常勤教員（特任含む）及びポストク研究員）

■募集期間：  
・2020年2月13日（木）～2020年3月6日（金）まで（期限厳守）  
※予算の都合により、途中で募集を打ち切ることがあります。

応募方法等については、以下のサイトにて詳細をご確認いただけます。  
また、申請書のダウンロードも同サイトより行えます。  
【しあわせキャリア支援センターホームページ】  
<https://www.nms.ac.jp/sh/shien/>

【お問合せ先】  
学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター事務局  
TEL: 03-3822-2131 (内線5503)  
Email: app-shien@nms.ac.jp

【英文校閲費用助成】

2019年度 学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 構成員

センター長	土佐 眞美子	日本医科大学付属病院 形成外科 准教授
副センター長	柿 沼 美 紀	日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医学科 教授
委員	大石 由美子	日本医科大学基礎医学 代謝・栄養学 大学院教授
〃	若林 あや子	日本医科大学基礎医学 微生物学免疫学 講師
〃	眞野 あすか	日本医科大学基礎医学 生理学（生体統御学） 講師
〃	武藤 三千代	日本医科大学基礎科学 スポーツ科学 准教授
〃	船 坂 陽 子	日本医科大学付属病院 皮膚科 教授
〃	保 利 陽 子	日本医科大学付属病院 麻酔科 講師
〃	石 渡 明 子	日本医科大学付属病院 脳神経内科非常勤講師
〃	塚 田 弥 生	日本医科大学武蔵小杉病院 総合診療科 講師
〃	荻田 あづさ	日本医科大学武蔵小杉病院 皮膚科講師（教育担当）
〃	田 嶋 華 子	日本医科大学武蔵小杉病院 小児科 助教・医員
〃	堀 純 子	日本医科大学付属病院 眼科 教授
〃	関 口 敦 子	日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科 病院教授
〃	神田 奈緒子	日本医科大学千葉北総病院 皮膚科 病院教授
〃	植 木 美 希	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科 教授



学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター

〒113-8602

東京都文京区千駄木 1 - 1 - 5 日本医科大学図書館 1階

☎ 03-3822-2131 (代)

📠 03-5814-6986

✉ [app-shien@nms.ac.jp](mailto:app-shien@nms.ac.jp)